



学園が静かな光に包まれ、美しく飾られる冬の季節がやってきました。飾り付け担当の保護者の粋な計らいで、今年は窓ごとに色や組み合わせにこだわって飾り付けされています。「マリアとヨセフ」「高学年校舎は繊細で落ち着いた彩」など発見できるかもしれません。どうぞ学園に足をお運びの際は、飾りにも目を向けてみてください。

アドヴェント特集

第1アドヴェントにあたる11月30日(日)、学園は「アドヴェントの集い」を開催しました。

ローズウィンドウやトランスパレントで飾られた窓から差し込む穏やかな光の中、手作りの食事や焼き菓子、クリスマスのワークショップ、クリスマスのお話、ライアー演奏、そして高学年生徒による合唱を行いました。



翌日12月1日(月)からは児童・生徒向けのアドヴェントを静かに祝う催し。毎週月曜日の朝は9学年が一堂に会し、「音楽の贈り物」として「フルート、チェロの演奏」「ピオラカルテット」「ライアー演奏」を楽しみました。8日(月)に1,2年生は「りんごろうそく」を体験。この日は「東京賢治シュタイナー学校」12年生が来園して下さり、学園のオイリュトミー室で卒業オイリュトミー公演「アラビアンナイト」を目前でご披露下さいました。5~9年生が観劇し、足元ギリギリまで舞い、多才に演じる様子に、声をあげて笑ったり、息をのんだり。

10日(水)3~9年生は「小さな音楽会」でクラスごとに歌や笛、キンダーハーブ、器楽演奏の発表をしました。音楽教員によるライアーと歌、教員からの歌のプレゼントもありました。最後に全員で「One Little Candle」を歌いました。

7~9年生がアルト・テナー・バスパートを歌い始め、3~6年生が主旋律に加わって響きあう美しいハーモニーに包まれました。

20日(土)「月例祭」では「アドヴェントの集い」で7~9年生が発表した合唱を、6年生、保護者有志も加わって発表しました。

23日(火)「生誕劇」、1月12日(月)「三賢王」(今年度初演)を観劇します。

音楽の贈り物



東京賢治シュタイナー学校オイリュトミー公演



* 5年生 山の学校 *

～2校合同宿泊学習に付き添って～

11/18～20の3日間、愛川ふれあいの村にて、横浜・藤野のシュタイナー学園5年生が合同で宿泊学習を行いました。横浜は17名、藤野は9名(1名欠席)の計26名。行動グループと宿泊部屋グループは横浜藤野の混合グループ、子どもたちは前々からかなり楽しみにしていたようです。当日が初対面ではなく、宿泊学習前に互いのクラスが行き来して交流活動の時間を設けて、互いの顔や名前を親しませるなど、長井先生と藤野5年生担任の後藤先生とでかなり緻密で入念な事前打ち合わせが行われていたようです。今回、「ボランティア募集」という長井先生の呼びかけに応え、全日程に加えてもらいました。

宮が瀬湖近くにある愛川ふれあいの村で藤野組と待ち合わせ。天気はまさに天恵で素晴らしく良く、先に到着したのは横浜組。長井先生が手続きしている間に体育館内で自由遊びをしている内に藤野組が到着。

まずは、標高706mの高取山への山登り。班別にまとまり「班で励ましあい一緒に登る・下りる」という目標を掲げて出発しました。予定が押していたらしく、ハイペースで登っていき、頂上に着くと班ごとにお弁当タイム。展望台から見える宮が瀬湖は絶景。お弁当タイムで少しずつ子どもたちの交流も進んでいくようでした。

高取山から下山し、開村式。ロッジに荷物を置くと、午後からは野外炊事が始まりました。野外炊事では5つの班(1班が5～6人)がそれぞれかまど一つを使って、ご飯炊きとカレー作りを行いました。ボランティアの大人が各班に一人ずつ付いて、手伝います。ここからが子どもたちの本領発揮。役割分担などは必要時に自分たちで決め、することがわからなくなれば大人に聞いてきますが、自分たちでやろうとする意識は当たり前のごとく。しようと思うことを他の子が先にやっても、何かしら別の自分の仕事を見つけて行動に移るといふ、非常に自律的な様を目にしました。横浜・藤野の混成グループであっても、そのように動ける、しかも楽しそうに生き生きと。カレーはどの班も美味しく出来ていました。



片付けも早い!調理の時と同じ、とにかく動く、いろいろやる。長井先生の「完璧です。」の言葉が耳に残る。その余韻の中で「なんでこんなに動けるんだ?ハッ、実はこれはオイリュトミーの効果だろうか?恐るべし、隅田先生!」と私は一人胸の内で合点していました。



入浴後に自由時間を与えられて子どもたちの気分は盛り上がりました。しかし、就寝前の集いの時間に車座になって今日の感想を静かに一言ずつ語った後で先生方の夜ふかし厳禁の言葉を聞くと、皆素直に寝室に入っていました。

2日目は6時起床。寒くて目が覚めました。しかし、昨日にも増して今日もいい天気。朝食前に広場で朝の集い。みんな良く眠れたらしく眠そうな子はいません。

2日目の午前中は宮が瀬湖の近くのあいかわ公園で遊んでから、観光放流の時間に合わせてダムの方もとに行きました。放流見学後はエレベーターで宮が瀬湖上に上がり、遊覧船に乗って宮が瀬湖畔園地に向かいました。

船室はほとんど貸切状態でした。乗船中、説明のアナウンス放送が入るたびに、皆立ち上がりて右を見たり左を見たり。好奇心すごいなあ。プレーリードッグの群れみたいで可愛いなあ、と思いました。宮が瀬湖畔園地に到着して、広い芝生で班別にお弁当タイム。ここで長井先生から夜のキャンプファイヤーで発表する寸劇のお題が出され、子どもたちはお弁当を食べながら相談していました。

その後は帰る時間まで思い思いに自由時間を過ごしました。吊り橋を渡る子たち、バレーボールや大縄跳びをしたりする子たち、コズミックベースボールに興じる子たち。コズミックベースボールでは横浜、藤野が入り混じって分かれ、女の子ももちろん入ってみんな楽しんでいました。この時分には子どもたちの一体感もかなり進み、もう横浜とか藤野とかを意識しなくなっている印象でした。

一行は午後3時過ぎに村に戻り、準備の時間を経てキャンプファイヤーの時間を迎えます。各班のトーチで点火すると、皆で歌を歌い始め、ダンスを踊り、徐々にキャンプファイヤーの雰囲気浸っていきます。火の勢いが強くなり、寒さは潜み、火のゆらめきがだんだん気分を解き放っていくようでした。

お昼に出されていた寸劇の発表はかなり笑えました。そして、ここからテンション飽和状態のまま、長井先生が声高らかに「クワガタ音頭〜〜!」。全員でものすごいノリ!大人も一緒に踊りました。そして次も「アブラハムの子」・・・と、ハイテンションダンスが続きます。意識は陶酔していくよう。その雰囲気(この山の学校のクライマックスの時が来た)と感じました。一体感が生まれていたと思います、大げさかもしれませんが私には恩寵と感じられるような一体感でした。一体感をひとつの生き物のように感じました。藤野とか横浜とか大人とか子どもとか関係なく融合したと思いました。先生方が、子どもたちに体験して欲しかったのはこのような体験だったのでしょうか?私は、先生お二方は、私たちが抱いている「教師」という概念以上のものを行使して教育に当たっているのだなと思いました。まさにマジック!

最後は火も静かに歌も静かに暗闇が再び降りてきました。子どもたちはロッジに戻り2日目も終わりになりました。



そして、最終日。子どもたちは今日も広場に集い、詩を唱えます。ふれあいの村での最後の朝食後ロッジに戻り、後藤先生が忙しげな口調で支度・掃除の指導をされましたが、ここからがまた5年生の成長の賜物。動き始めると早い、早い。分担した部所の掃除を自分の仕事を探して動く。とにかく動きが機敏。自分の寝具の片付けも、説明されたことをよく守って元に戻している。

予定通りに9時に退村式を済ませバス停に向かうと、ちょうどバスが来ました。計画より早めにレインボープラザ（愛川繊維会館）に着くと、すぐに館長さんが出迎えてくださり、説明・見学・体験と、予定より長い時間を過ごすことができました。

絹糸の歴史や撚糸機械の発明などの話がありました。工場見学もしました。その後全員が手織り（コースター）と組むも作りをしました。最後は会館内で、みんなで机を囲んでお弁当タイム。合同での活動は全て終了し、いよいよお別れの時間が近づいてきました。

それぞれの帰路に向かうバスが同じ時刻に出発します。バスを待つ間に全体で記念撮影し、その後一人ひとりが互いの学園の一人一人全員と握手して別れを言いあい、名残を惜しみました。この時、空はいつの間にか雨雲で雨がポツポツと降ってきました。気持ちにあまりにシंकろする雨降りでした。お互いが乗る場バスが来た後は、乗車したバスの中からバスが動き出して見えなくなるまでずっと手を振っていました。

本厚木に着くと雨がやや強くなりましたが、無事帰ってきた安堵感と達成感がありました。

横浜と藤野の合同での体験活動を通して見てきましたが、振り返るといろいろなことを感じていました。ひとつは彼らの合流が違和感の少ないものであったと感じたことです。なんとというか藤野の子どもたちと会えたことによって、シュタイナー育ちの子供の持つ共通の雰囲気というものを幾分か感じました。言葉にするのは難しいですが、藤野の子も非常に個性が現れているという印象がありました。各々が横

浜の子たちとはまた違う個性ですが、そういう個性というものが藤野の子たちもあまり損なわれないうちで成長しているなという風に感じました。そこには何かしら幼い雰囲気も感じましたが、それも共通した印象で、無尽蔵なパワーがその中にごそ蓄えられているように思えました。個性が損なわれないうちで育つ・生きるということがどうしたことなのか、個性を損なわれないで成長するために大事なことは何か、それはシュタイナー育ちの子どもを見ているとわかるのではないかと思います。それが藤野の子どもたちに出会って私が得られた大きな学びの一部だと思っています。

貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

（5年生保護者 鈴木直亮）



5年生 英語劇「A Pot Of Poison」

11月下旬、5年生の英語劇の発表がありました。題して「a pot of poison」。有名なお話なのでご存知の方も多いと思います。これまでに横山クラス、黒沼クラス、神田ひとみクラスが演じています。今年の5年生は2学期に入ってからこの芝居の練習を始めました。登場人物は4人なので、クラスを5グループに分けて、同じ芝居を5回見ました（数人が2回出演）。

「アン・チン・カン」という小僧さんたちのユーモラスな名前が印象的な歌を、内村先生の本魚のリズムに合わせてクラス全員で歌って、お芝居が始まります。おこりんぼの和尚さんと、ひたすら平服している小僧さんたち。和尚さんが外出すると、とたんに緊張の糸が切れ、小僧さんたちはだらけてしまいます。あっ、もう和尚さんが帰って来る頃だ、と急いで掃除を始めたら壺を割ってしまい、慌てふためく小僧さん。一人が舐めてみて、ハチミツだとはっきりわかると、3人でペロペロ。舐め尽くしてから、和尚さんの「毒が入っているから壺に触るな」という言いつけを思い出し、窮しますが、一人が知恵を働かせ、結局は帰ってきた和尚さんが自分の嘘の報いを受けてしまいます。

和尚さん役の子たちの堂々とした存在感。小僧さんたちは普段の自分たちに近い感じ？ ハチミツを舐める表情が可愛らしい。それにしても、全員が、見事にはっきりした声で台詞を言っていました。今年の英語劇ではまだぼそぼそ小さな声しか出なかったのに。台詞を忘れた子には、みんなが小声で助けます。

5年生の2学期ともなると、ここまで成長するのだな、と眩しい思いです。ともかく全員できるー。

内村先生によると、「5年生はシャイなので、温まるまで時間がかかりました。でも、思ったよりも声が出ていました」とのこと。確かに、本番では誰ももじもじしたりせず、しっかり演じていました。芝居を作って行く途中、米国シュタイナー学校で演劇を担当、ご自身も劇団を率いておられるデイビッド・アンダーソン先生が来校されたので、演出や演技指導でお世話になったそうです。先生のアドバイスは「対比とコミカル」を際立たせること。この素晴らしいアドバイスに対して、子どもたちは自分たちに可能なことは取り入れて実行し、今の自分には無理だと思われることはやらない選択をした。内村先生は、そんなところからも子どもたちの成長を感じたそうです。

秋頃、台本を家に持ち帰って、楽しそうに台詞を暗記していた息子の姿が印象に残っています。

内村先生からも、教えるのが楽しくてたまらない気持ちが伝わってきて、参観した私も幸せな気持ちになりました。

（5年生保護者 中根圭代）

9年生 英語劇「The Wizard of Oz」

11月21日(金)、9年生クラスによる英語劇「オズの魔法使い」が行われました。1週間前の保護者会で神田先生が「子どもたち本当にがんばっています。ガリレオ劇に劣らない、素晴らしい出来ですよ。ぜひ見に来て下さい！」とおっしゃるし、残り少ない学園生活なので、仕事の合間をぬって見に行くことに。

ちなみに神田先生は保護者会では、延々とクラスの「子ども自慢」をします。学校でのさまざまなエピソードを楽しそうに話しながら「本当にこのクラスの子は素晴らしい!」「ほかの先生からも評判ですよ」「奇跡の中学生です」などなど。親の私たちも「先生、ほめすぎ…」と思うのですが…。

チェロの音色で劇ははじまりました。ドロシーが嵐に巻きこまれ、魔法の国に到着。脳みそのないかかし、勇気のないライオン、心のないブリキ人間に出会いながら、力を合わせて、オズの元へとたどり着きます。大きな谷をライオンと一緒に飛び越えたり、木を切り倒して作った橋をおそるおそる渡る様子…。舞台の上には何も無いのに、深い谷や、大きな木が本当にそこにあるような気がしました。オズは結局、魔法使いではありません。でも、そこにたどり着くまでに、ライオンもブリキ人間もかかしも、自分の課題を自らの力で乗り越えていきます。子どもたちの成長ぶりと重なり、じーんとしました。

神田まクラスには女優志望さんが2人います。2人の演技力もさることながら、8人全員がこの物語に深く入り、一つ一つの場面を共有していたことが、お芝居を豊かなものにしていました。配役もそれぞれの個性にぴったり!ただ単に「英語の練習」でなく、「英語を使って物語に浸」っていることに、すごいなあ、と感じました。神田先生同様、ほめすぎかもしれませんが(笑)

かかしやライオンたち同様に、また一つ課題を乗り越えさせてくださった浜本先生、神田先生、ありがとうございました。(9年生保護者 田中麻子)



インフォメーション



「建築講座」年間テーマ～色～ 第3回「色と空間」

日にち：1月23日(金)
時間：10:00～12:00
場所：霧が丘校舎
参加費：1,500円

茶話会／校内見学会

学園の雰囲気を感じていただける
この機会に、どうぞお訪ねください。

茶話会(水曜日)

日にち：1月21日・2月18日

時間：10:00～12:00

校内見学会(金曜日)

日にち：1月25日・2月20日

時間：15:00～16:00

参加費：無料

場所：霧が丘校舎

学園にご興味・ご関心のある方はどなたでもお越しください。

お子様連れも可です。

※お子様の上履きをご持参ください

星の金貨

2014年もスクールショップ星の金貨をご利用くださいまして、ありがとうございました。皆様の笑顔や励ましに支えられ、10年が過ぎました。

新しい年もどうぞよろしくお願いいたします。

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

星の金貨ブログ

<http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

ご寄付ありがとうございます

(順不同・敬称略)

11/1～12/15

杉田克明、星の金貨、りんごの木(青山誠)、加藤洋子、福元晃(なかがわ耳鼻咽喉科)、どんぐりのおうち

<よこはま夢ファンドを通してのご寄付>

浜橋真人、難波孝徳

☆皆様からのご寄付は大切にさせていただきます。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.com

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替：00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セピア17店)当座0130702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第77号

2014年12月22日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載を禁じます